

ウ メ (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

浅根性ではあるが、耕土が深く保水性が高い場合で生育が良い。これは根の耐湿性が低く、酸素要求度が高いことにより、排水良好で土層の深い壤土、砂壤土が適しているためである。また、夏季の収穫後以降は養分蓄積期となり、この時期の貯蔵養分の多少が翌年の生育に影響する。適正pHは6.5前後で、酸性に傾くとホウ素、カルシウム含量が低くなり、欠乏症に似た症状が果実に発生する。

〔病害虫・雑草防除〕

病害虫の休眠期や発生初期に防除の重点を置き、休眠期にはせん定を適正に行う。特に黒星病発生を軽減するためには、枝の混雑をなくし越冬胞子を減らすだけでなく、生育期に薬剤が株全体にかかるようにせん定する。落葉、せん定枝は圃場外に持ち出し、園内の越冬病害虫の密度低下に努める。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	耐干性や肥効を高めるために根群分布の多い土層（深さ30～40cm）に堆肥を計画的に施用する。その際断根を極力少なくする。 有機物（または堆肥）によるマルチ施用。堆肥は良く完熟した低成分含量堆肥（稲わら堆肥及び落葉堆肥等で窒素、カリ含量が1%以下の完熟したものを）を施用する。	有機物 （または堆肥） 2～3t/10a
化学肥料 低減技術	根域への施用を基本とする。 肥効調節型肥料を利用し、養分吸収特性に応じた施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準 以下  有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20～50%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 BT剤をローテーション散布に位置づける。 （対象：ハマキムシ類、ケムシ類） 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 （対象：コスカシバ、ナシヒメシンクイなど）	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	乾燥や窒素過剰などの根域土壌の悪化は、胴枯病、枝枯病誘発の要因となりやすいので特に注意する。 草生園ではウメ樹との競合を起こしやすいので、草刈り（10cm以下）を励行する。 黒星病は、せん定を適正に行い、風通しを良くし菌密度を下げ散布回数を減らす 樹形改善（樹高2.5～3mで主枝2～4本の樹形とする） 施肥量の基準は樹齢、樹体に応じたものとする。 収穫期から落葉期までは養分蓄積期となるので、効率よく吸収させるため根が傷まないように分施により追肥する。	

ウ メ (灰色低地土)

〔土壤肥料〕

浅根性ではあるが、耕土が深く保水性が高い場合で生育が良い。これは根の耐湿性が低く、酸素要求度が高いことにより、排水良好で土層の深い壤土、砂壤土が適しているためである。また、夏季の収穫後以降は養分蓄積期となり、この時期の貯蔵養分の多少が翌年の生育に影響する。適正pHは6.5前後で、酸性に傾くとホウ素、カルシウム含量が低くなり、欠乏症に似た症状が果実に発生する。

〔病害虫・雑草防除〕

病害虫の休眠期や発生初期の防除に重点を置き、休眠期にはせん定を適正に行う。特に黒星病発生を軽減するためには、枝の混雑をなくし越冬胞子を減らすだけでなく、生育期に薬剤が株全体にかかるようにせん定する。落葉、せん定枝はできるだけ圃場外に持ち出し、越冬病害虫の密度低下に努める。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	耐干性や肥効を高めるために根群分布の多い土層（深さ30～40cm）に堆肥を計画的に施用する。その際断根を極力少なくする。 有機物（または堆肥）によるマルチ施用。堆肥は良く完熟した低成分含量堆肥（稲わら堆肥及び落葉堆肥等で窒素、カリ含量が1%以下の完熟したものを）を施用する。	有機物 （または堆肥） 2～3t/10a
化学肥料 低減技術	根域への施用を基本とする。 肥効調節型肥料を利用し、養分吸収特性に応じた施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下  有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～30%
化学農薬 低減技術	機械除草を行う。 B T剤をローテーション散布に位置づける。 （対象：ハマキムシ類、ケムシ類） 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 （対象：コスカシバ、ナシヒメシンクイなど）	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	乾燥や窒素過剰などの根域土壌の悪化は、胴枯病、枝枯病誘発の要因となりやすいので特に注意する。 草生園ではウメ樹との競合を起こしやすいので、草刈り（10cm以下）を励行する。 黒星病は、せん定を適正に行い、風通しを良くし菌密度を下げ散布回数を減らす 樹形改善（樹高2.5～3mで主枝2～4本の樹形とする） 施肥量の基準は樹齢、樹体に応じたものとする。 収穫期から落葉期までは養分蓄積期となるので、効率よく吸収させるため根が傷まないように分施により追肥する。	